

# 天変地異と人間

チーム構成：磯部洋明(宇宙学)、中西恭子(宗教史学)、早川尚志(歴史学)、玉澤春史(天文学)、河村聡人(天文学)

## 1.天文学として(学術研究)

- ・ 古文献中に天文現象や大地震を探す先行研究はある。
- ・ 近年、超巨大太陽フレアの発生を示唆する天文観測や地質学的証拠の発見が相次ぐ。一部の文献はデータベース化が進んで検索が容易に。

➤ 古文献中の太陽黒点やオーロラの記録をサーベイし、過去の極端太陽活動や地磁気分布を探る

具体的アプローチ

- ・ 中国天文誌、バビロニア天文誌、古代地中海世界の文献
- ・ 年輪・氷床コア等の放射性同位体等の地質学的証拠と照合

## 2.歴史・宗教学として(学術研究)

- ・ 世相の乱れと天変地異を結びつけた歴史的記述は多い
- ・ 実際の人間の活動や宗教現象に影響はあったか？

➤ 歴史叙述における天変地異と同時代への影響を調査

➤ 自然科学的手法で実際の天変地異を再現

具体的アプローチ

- ・ 古代地中海世界におけるキリスト教受容過程、災害時の政策決定や宗教者による慈善事業等に着目
- ・ 天変地異は日月食、オーロラ、彗星、地震、津波、生物大発生など

## 3.同時代の社会のために(思想+社会実践)

- ・ 現代社会における、科学と宗教への需要と期待、そして不信と無関心
- ・ 人は天変地異に何を思いだしてきたのか？そこからどのような影響を受けてきたか？現代ではどうか？

➤ 科学と宗教を介した人間と宇宙の関係を通事的に描き、現代社会の市井の人々にとって意味のある、科学と宗教の共存のあり方を探る

具体的アプローチ：様々な時代・地域・宗教研究者を招いた研究会、仏教寺院や教会で宗教実践者や地域住民を交えた対話イベント